～株式投資で勝つ方法～　－経済編・４年前期－

2006/04/21　太田寿一

新時代の指導者か、それとも道化師か　宇野康秀

ヒルズ族の象徴たるライブドアの瓦解は、同じＩＴ企業だけでなく日本経済にまで影響を与えました。逮捕により目まぐるしく代わる代表取締役、青色吐息のライブドアに救いの手を差し伸べたのは、同じＩＴ企業であり、堀江氏とも親交のあった“ヒルズ族の兄貴分”である宇野康秀氏でした。

フジテレビからライブドア株を取得した時の宇野氏（2006/03/16）

Ⅰ　起業家としての才能、教育、訓練

宇野康秀氏は、㈱大阪有線放送社の社長である于元忠（宇野元忠）氏の次男として生まれました。宇野氏は幼い頃から「起業家になりたい」と考えていて、中学生の頃から松下幸之助氏や藤田田氏の本を読んでいました。その後、東京に対する憧れもあって明治学院大学に進学します。大学時代の宇野氏は、イベントサークルを主宰したり学生起業に参加したりすることによってビジネスを学んでいきました。

Ⅱ　スタートアップ

大学卒業後、宇野氏は「起業家養成学校」として名高い㈱リクルートに内定をもらうものの、その子会社であり不動産業を営む㈱リクルートコスモスに入社しました。しかしその翌年には、宇野氏は採用コンサルティングを行なう㈱インテリジェンスを、学生起業の後輩である鎌田和彦氏（現㈱インテリジェンス社長）らと共に設立しました。

当初は相当な苦労がありましたが、「9,000 億円の市場で、トップ企業（パソナ）が 400 億円なら参入余地は十分ある」と考え、人材派遣業に参入。それによって急成長を遂げた同社は、2000 年 4 月に日本証券業協会に店頭登録を果たします（現在宇野氏は、同社の筆頭株主であり、代表権を持たない取締役会長を務める）。

Ⅲ　起業家から、経営者として

宇野氏がまだインテリジェンスで奮闘している頃、病で伏せている父親の元忠氏から突然

大阪有線の後継者に指名されました。「10 年間は何もしなくてもいい」と言われ、社長に就任した宇野氏でしたが、就任早々同社にとって懸案事項であった「電柱の無断使用問題」に取り組みます。

元忠氏が率いていた頃の同社は、深夜に社員が総出で電柱にケーブルを張り、電柱の無断使用を行なっていました。正規の場合、電力会社やＮＴＴに許可を受けて使用料を払わなければいけないところを、同社は社長の指示で不正工事を行なっていたのでした。

宇野氏はこの問題を解決するために、無断使用の電柱を１本ずつ数えて、写真を撮り、市町村に届出を行なうと作業を行ないました。幹部社員が続々と会社を去る中、のべ 720 万本にも及ぶ作業を終え、不正使用料をきちんと払ったことで、同社は 2000 年に第一種通信事業者の認可を得ることができたのです。

宇野氏主導となった同社ですが、2004 年にはネガティブキャンペーンを展開したことによって公正取引委員会から排除勧告を受けたり、当選商法に酷似した勧誘を行なったりと、その手法を問う声もあります。また前年に 277 億円の赤字を計上したり、1,000 億円を超える有利子負債を抱えるなど、元々の会社に対する不信感もあります。それに加え、ライブドアには今後損害賠償請求という大きな問題もあり、多くのリスクを抱えています。

その一方で宇野氏は、２社の会社を上場させた経営手腕や、サイバーエージェントの藤田晋氏など多くの起業家や経営者を輩出するなど、多くの実績も残しています。

宇野　康秀（うの　やすひで）　年譜	
1963 年（０歳）	・大阪府に生まれる
1988 年（25 歳）	・明治学院大学法学部法学科卒業
	・㈱リクルートコスモスに入社
1989 年（26 歳）	・㈱リクルートコスモスを退社し、㈱インテリジェンスを設立
1992 年（29 歳）	・日本国籍を取得
1998 年（35 歳）	・㈱大阪有線放送社の代表取締役に就任
2000 年（37 歳）	・㈱大阪有線放送社から㈱有線ブロードネットワークスに社名変更
2001 年（38 歳）	・大証ナスダックジャパン市場（現ヘラクレス）に上場
2005 年（42 歳）	・㈱有線ブロードネットワークスから㈱ＵＳＥＮに社名変更
	・インターネット上で無料動画配信を行なう「Gyao」のサービス開始
2006 年（43 歳）	・フジテレビからライブドアの発行株式（12.75%）を１株 71 円、総額 95 億円で取得（宇野氏個人による）

参考：実践ビジネス発想法　http://www.planbiz.info/blog/
ウィキ – Wikipedia　http://ja.wikipedia.org/wiki/USEN